

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	八王子市立みなみ野保育園
-----	--------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

昨年度からの継続で畑づくりをする中で、里芋に水やりをしていた子が「里芋の葉っぱって水を弾くよね」と気が付き、「なんで他の葉っぱは水を弾かないのに、この葉は水を弾くの?」と不思議に思う。4、5月に散歩に出かける中で「もっと山とか森に探検にいきたい」とこどもたちから声があがっていたので、様々なところに散歩に出かけるなかで、葉っぱに対する不思議さを探求できるようにしていく。

2. 活動スケジュール

春 昨年度、畑やプランターで様々な野菜を育てていたので、こどもたちから、今年はどうな野菜を育てるか話題にあがる。子どもたちと相談しながら育てる野菜を決め、土づくりから行う。
--

夏 様々な野菜が育ってくる。水あげや、雑草取り、収穫をする中で、野菜や自然の不思議さや、様々な発見をする。

秋 子どもたちが感じた不思議さや発見をみんなで共有し、図鑑や顕微鏡を使い興味関心を深める
--

冬 散歩にでかけ、季節の移り変わりなど、興味関心を広げる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

顕微鏡・カメラ・写真フォルダー・ペン・画用紙・バスでの移動費・図鑑・観察ケース・プリンターインク・SD カード

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

様々な葉と里芋の葉を顕微鏡を使って調べ違いがあるか見比べる。それを元になぜ里芋の葉が水を弾くのかについて考える。様々な自然物に興味を持ち、季節の移り変わりなどに気が付けるように継続的に散歩にでかける。

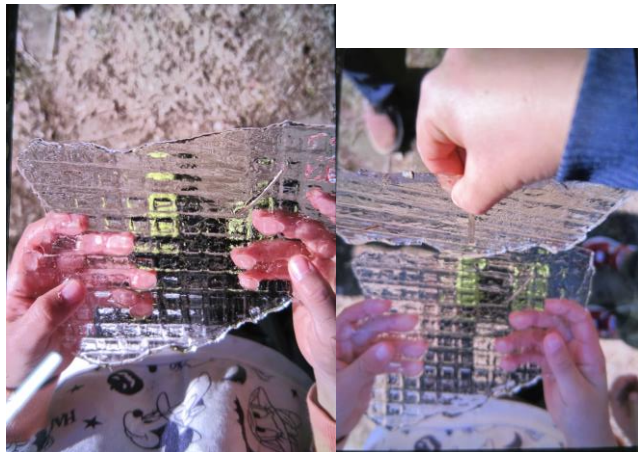
みなみ野保育園から離れた公園に出かけたいとの声が上がっており、計画していたが熊が出没する危険があったため、近くの公園での散策を続ける。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

なぜ里芋の葉っぱは水を弾くのか、不思議さに気が付いたこどもに尋ねると、考え込む。少しすると、保育者の元に来て「里芋って、水が好きって聞いたことがあるよ。もしかしたら水が好きだから、葉っぱだけでなく、根っこにも水をはこんであげようとして、水を弾くんじゃないかな」と言う。それを聞いていた、他児が「他の葉っぱは弾かないの?」とその子に尋ねる。「どうだろう」とまた考え込む。以前に顕微鏡を使って洋服や紙を見ていたことを思い出し、顕微鏡を使って見てみようと言った。



保育園の近くの公園での散策を続ける中で、季節が移り変わり、池に氷が張っていることに気づく。氷を手に取り、「冷たい」「痛い」と言いながら感触を楽しみ遊んでいたこどもたちが、側溝のふたに氷を置くと模様ができることに気が付く。模様ができたことを周りの友達に「見て！」と伝え、みんなが集まる。様々な模様を作って、それをチョコレートやパソコンに見立てるなど遊びが広がっていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

こどもたちが疑問に思ったことに対して、調べ方なども含めて、すぐに答えを出すのではなく、なんでそうなるのか？疑問を投げ返すことで、自分たちで考え、自分たちなりの答えを導き出す様子があった。日頃から、こどもたちの手の届きやすいところに、図鑑や顕微鏡などを置いておくことで、調べる時の選択肢として、上がっていくことが分かった。熊の出没の危険性が高まるなど、計画通りに進まないこともあったが、計画と違っていても、こどもたちの発見は多くみられ、遊びを通して探求する力が備わっていると感じた。